児童に見られるつまずき

　式から問題場面を想像し、場面を正しく式に表すことができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　立式の理由を、場面と図を式でつなげて説明させることで、式と問題場面をつなげて考えることができるようにする

指導事例集ｐ．７９

１　学年・単元名　　第２学年　かけ算（１）　かけ算のもんだい作り（数量関係領域）

２　単元目標

かけ算の意味を理解し、５、２、３、４の段のかけ算を構成し、九九を唱えたり、それを適用したりできる。

３　単元の内容

・かけ算の意味と式のよみ方、かき方

・かけ算の式と答えの求め方

・「倍」の意味と「倍」という見方

・５の段の九九の導入と構成

・５の段の九九の唱え方、練習と適用題

・２の段の九九の構成、唱え方と適用題

・３の段の九九の構成、唱え方と適用題

・４の段の九九の構成、唱え方と適用題

・基準量が後に示させた問題と適用題

**・かけ算の問題づくり**

　・２、３、４、５の段の九九の練習と適応題

４　本時の目標

　　かけ算の問題づくりを通して、かけ算が適用される場面についての興味や理解を深める。

参考：板書

５　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 児童の活動 | 指導上の留意点  **太字：つまずきに対する手立て** |
| 導入  展開  まとめ | １　例題を読んで、問題作りの課題を理解する。  おさらが４さらあります。１つのさらには、みかんが２つずつのっています。みかんはぜんぶで何こになるでしょう。  １つのおさらにみかんを２こずつおきました。４さらでは、みかんは何こになりますか。  ２　グループの形態にして、問題づくりをする。  ３　他のグループや友だちの作った問題を解いて、立式した理由をグループで伝え合う。  ４　ふりかえり | ・問題作りを２パターンで例示し、問題場面と式のつながりを意識させる。  資料：例題①②  ・１つ分は何で、いくつ分あるのかを確認する。  ・問題に出てくる順序が違っても、１つ分をもとに考えるので、式は一緒になることを確認する。  ・かける数・かけられる数の関係を単位に注目して考える。  **・グループ学習の形態をとることで、解決の方法をスムーズに理解させ、１つ分は何で、いくつ分あるかを意識して問題を作ることができるようにする。**  ワークシート①②使用  参考：記入例  **・「なぜその式になったのか、問題や図を使って説明しよう」と問いかけ、場面と図を式でつなげて考えられるようにする。**  ・図を描くことで、１つ分が何個あるかの説明につなげさせる。  参考：授業の様子（写真）  （評価）  ・1つ分が何個あるかに注目できたか。  ・かける数、かけられる数を間違わずに立式することができたか。  ・問題や図・式を説明することができたか。 |